

## 1. 幼稚園の運営

(1) 所在地：水戸市緑町三丁目九番 36 号

(2) 定員：140名 利用定員(水戸市に報告定員)：120名

(3) 職員数：25名 (内休職1名)

常勤(16名)：理事長1名、園長1名、主任教諭1名、教諭11名、管理栄養士1名  
 運転手1名

非常勤(8名)：教諭2名、調理員4名、園バス運転手2名

2. 教育理念 神様に愛されている幼子、そして育てている保護者が喜びに満たされる生活を  
送れるように、今を大切に生きること。

年間テーマ 『 平和とともに 』

キリストは私たちの平和であります

エフェソの信徒への手紙2章14節

## 教育課程

一学期：出会いが保障され、出会いが意識化されることによって、喜んで自分の存在を受け  
 容れてくれる存在がいることを、知っていく。

二学期：自然の中に感動を得、物事への興味を育み、他者を含め共に生きる存在が  
 いることを前向きに喜んでいく。

三学期：自分を前向きに捉え、自分と違う存在が居ていいという肯定感を持ちつつ、  
 仲間と共に何かを創りあげていく喜びを知る。

## 3. 保育時間

通常保育：8時30分～14時

一時預かり保育：8時から8時30分。保育終了後～17時30分(長期休業 8時～17時30分)

## 4. 職員と園児数

(1) 28年4月採用2名(保育者1名・運転手1名)／29年3月末の退職者4名(保育者4名)

29年4月採用3名(保育者新卒4年制2名・中途1名) 復帰保育者1名

(2) 園児数月ごと変化 105名－106－108－108－108－109－109－109－109－110－110－108

## 5. 主な行事 / 金曜日 礼拝 / 月ごとに 誕生会

一学期	二学期	三学期
新入児二者面談	遠足	保育参加
親子遠足	運動会	積木ワークショップ
植物栽培／クッキング	さつまいも堀遠足	歩く会
木工	クッキング	観劇会(劇団風の子)
保育参観	消防署訪問	高齢者クラブの方との交流
プール	こどもまつり	ひなまつり会
お泊まりキャンプ	クリスマス会	親子給食会食会

個人面談

親子陶芸(子育て支援事業)

卒園・終了式

## 6. その他の活動

水戸市合同説明会 6月28日(火) 青柳体育館

入園説明会 9月24日(土)

にじいろチャイルドの会 園児観察8回・コンサルテーション8回・職員研修1回

NEW 保護者のおしゃべりルーム2回 (茨城大学大学院 金丸隆太先生)

おはなしはらっぱ 年長児対象 実施回数 7回 (茨城キリスト教大学 原口なおみ先生)

オリーブの会 保育者対象 2回 (茨城キリスト教大学 藤山修先生)

未就園児親子くらぶ (つくしっこくらぶ) 実施回数 14回

子育て相談 4月、8月以外毎月 実施回数 17回

園庭開放 (木もれびの庭) 10回

ホームページ月ごとに更新/ブログ～

教育実習生受け入れ 茨城キリスト教大学 2月 2名

## 7. 今年度の教育用購入品

さくら・ぞうグループ床張り替え 床暖房ボイラー新規交換 園庭ライト

抗菌砂場用砂 ベンチ 三輪車 絵本 ミニボール コップかけ

## 8. 今年度の保育評価

満3歳児から5歳児までの混合クラスが4クラス。2016年度は園児数が減少し、一クラス27人前後の生活クラスとなる。フォローを特に必要とするお子さんがクラスの中に6名前後と多いことから、補助支援の方法を変更する。今年度は年間を通してB先生は誰と誰と誰を意識、個別支援していくという担当制にする。また活動の座席指定。持ち物や生活の流れを視覚情報で提示するなど、誰にとってもわかりやすい方法を少しずつ取り入れた。一方個別で支援のねらいをもつお子さんが多くて、その記録に時間がとられるなど、事務負担の増加が課題である。2年目の保育者が生活グループの担任を行うことでの成長はめざましく、保護者や子どもたちとの信頼関係は醸成されていたと考える。ただ、1グループは担任が体調を崩した一年であったので、そのフォローをしてきたベテランたちの働きは大きかった。また1グループは補助担任が11月末より休職となり、そのフォローにもあたる。水戸幼稚園が考える子どもたちへの関わり方が、保護者にも視覚的にわかりやすかったこと。お子さんに保育者の欠けによる不満や楽しめないという状況が出なかったことが、本年度を乗り切れた要因と考えられる。毎月心配を抱える保育者が、その悩みを出し、考えや取り組みを認めてもらえるコンサルテーションの役割は、大きかった。

行事としても、運動会を堀原運動公園の大道場で行えるようになったことは、保護者に安心感をもたらしたといえる。

食物アレルギーでの対応は、4月に学校生活管理指導表(アレルギー)を当事者に記入して頂き、引き続き個別対応を徹底した。

年齢活動が充実し、年長児としての喜びや期待が生きる活動の流れが定着しつつある。一方同じグループで生活をしていても、異年齢での交わりは思いの外多くはなく、もう少し異年齢ペアを生かせないかと考えている。

管理者である主任が保育者の間にさりげなく入り、お互いの声を調整するいい働きをしていた。

また、非常勤の保育者の専門性や包容力が、個別の子どもたちの信頼感を支えてくださる。

報酬面では、時間外手当の実行や賃金改善手当を賞与に付与することができなかった。17:30 終了の預かり保育を 18:30 まで伸ばす状況の働き手の母親は 3 月末までこの園で担当者の善意に支えられ、次の場へ引き継がれていく。それぞれに困難は多々あったが、神さまの導きに従った一年であった。

インフルエンザによる学級閉鎖が 1 日あった。

3 月末、保護者の都合での退園者が 2 名いる。2017 年度の入園募集は、3 歳児が募集にやや足りなくて 29 名(32)。満 3 歳児が 5 名(8)という状況である。新年度は計 107 名でのスタートとなり、途中に 5 名の満 3 歳児が入園してくる形となる。2017 年度に卒園する年長児が 45 名と多いことから、2018 年度は人数の減少が予想される。